習志野市子どもの生活に関する実態調査

報告書【概要版】

調査の概要

調査の位置づけ

平成２８年国民生活基礎調査によると、我が国の子どもの貧困率は１３．９％となっており、平成１６年度調査から上昇を続け過去最悪となった平成２５年度調査の１６．３％よりマイナス２．４ポイントと改善傾向にあるものの、依然として子ども７人に１人の割合になっています。また、ひとり親世帯の子どもの貧困率は５０．８％と半数を超える状況下にあります。

貧困の問題を抱える子どもたちには、食事や基本的生活習慣への課題から健康面への影響が生じたり、教育や様々な体験の機会が失われるなど、その健全な成長に支障を来すことが懸念されるとともに、地域の中での孤立や必要とされる支援が届いていないことも危惧されております。

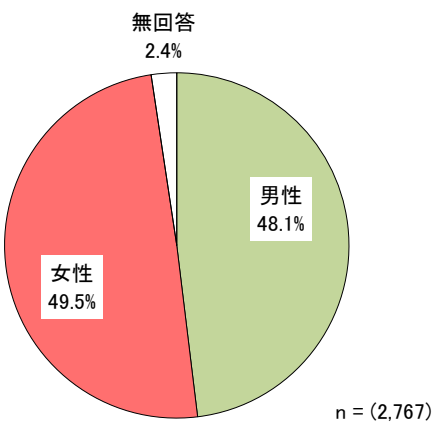
本市では、これらを背景に、本市全体の子どもの生活状況を探ると共に、世帯の経済状況等における子どもの健康や生活状況に与える影響、求めている支援などを探り、一人ひとりの子どもが将来にわたって本市を支える担い手となるための有効な手立てについて検討するための資料とすべく、本調査の実施及び分析をしたものです。

調査方法と回収状況

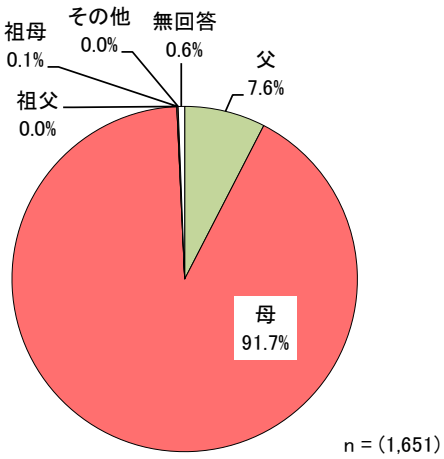
調査対象	子ども調査	習志野市立学校及び公立特別支援学校に通う、小学５年生（1,458 人）および中学２年生（1,413 人）　2,871 人
	保護者調査	上記の保護者（2,871 人）
調査方法	子ども調査	学校配布、学校回収　※特別支援学校は学校配布、郵送回収
	保護者調査	学校配布、郵送回収
調査期間	共通	平成 29 年 10 月 18 日（水）～11 月 14 日（火）
回収結果	子ども調査	有効回収数 2,767 件（有効回収率 96.4%）
	保護者調査	有効回収数 1,651 件（有効回収率 57.5%）

回答者の属性

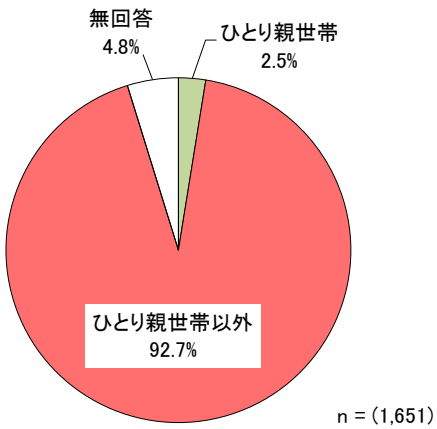
性別【子ども】



回答者【保護者】



一人親世帯別【保護者】

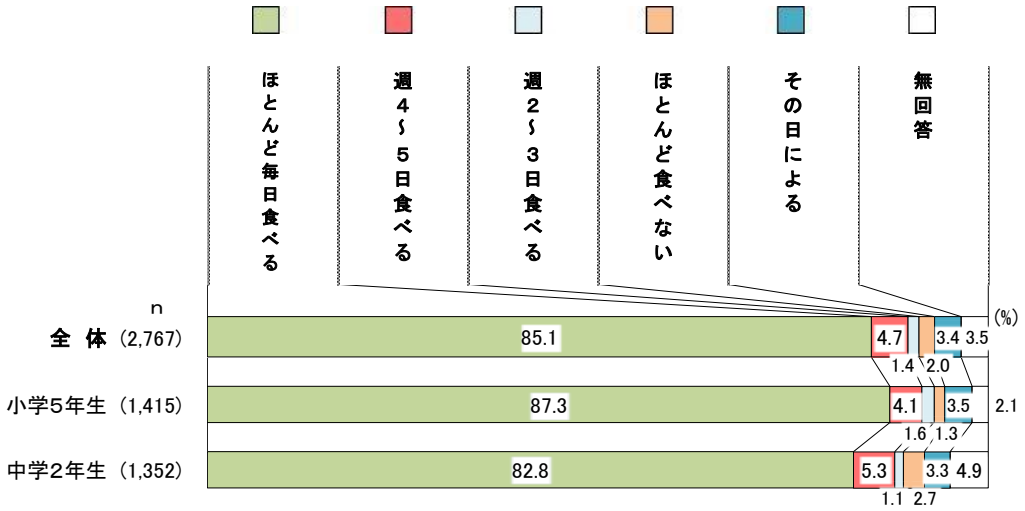


調査結果一覧（抜粋）

健康について

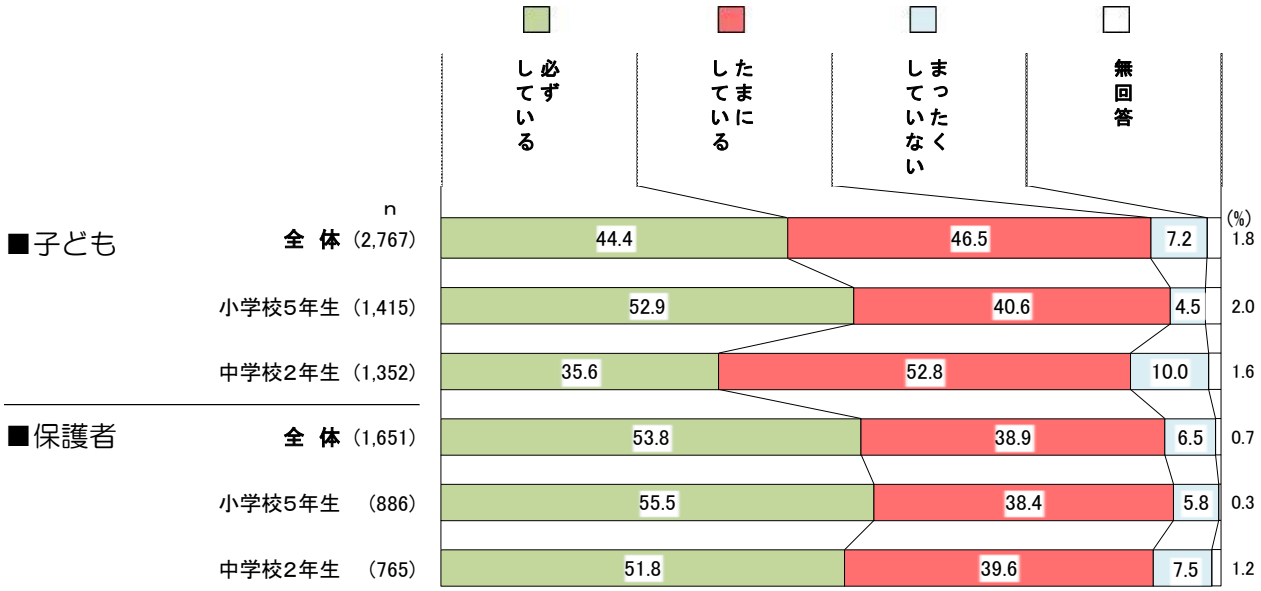
朝ご飯を食べる頻度【子ども】

朝ご飯をほとんど毎日食べる子どもは、約８割です。



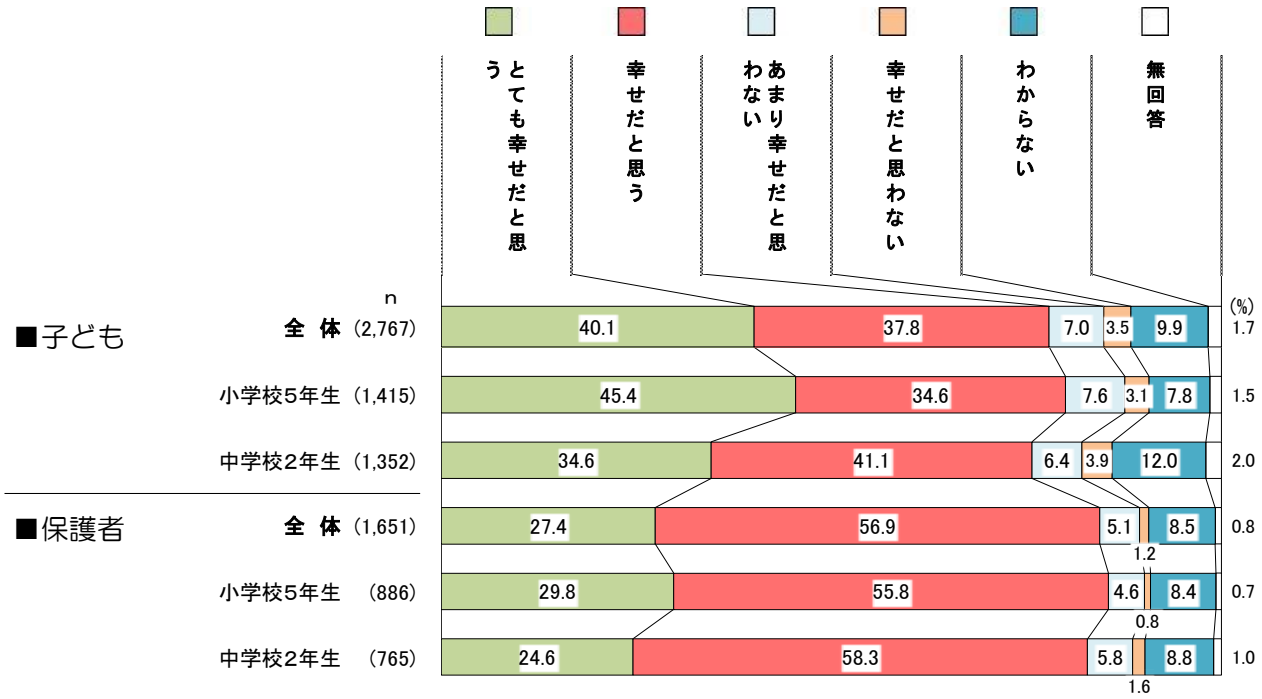
規則正しい生活をしているか【子ども・保護者】

規則正しい生活を、『している』（「必ずしている」＋「たまにしている」）子ども・保護者は、約９割です。



自身の幸福度【子ども・保護者】

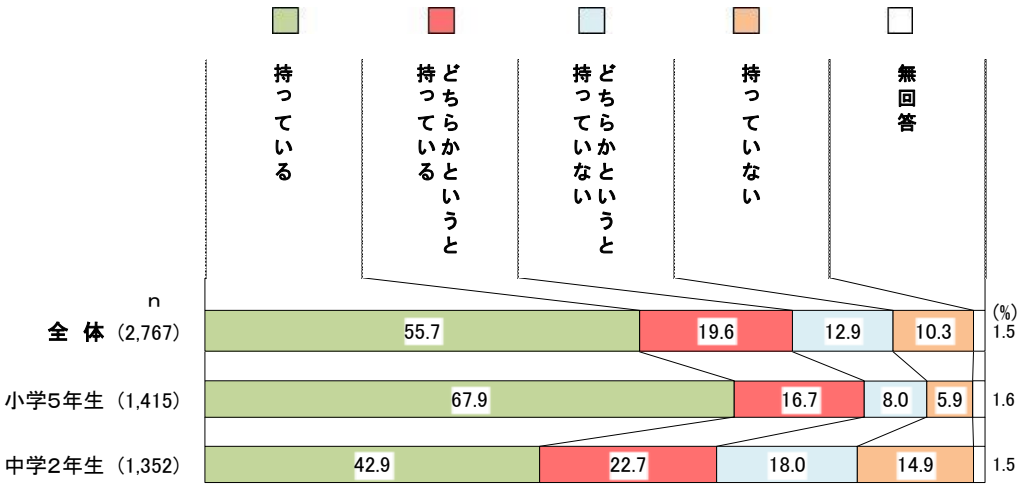
『幸せだと思う』（「とても幸せだと思う」＋「幸せだと思う」）子ども・保護者は、７割以上です。



将来の夢や自己肯定感

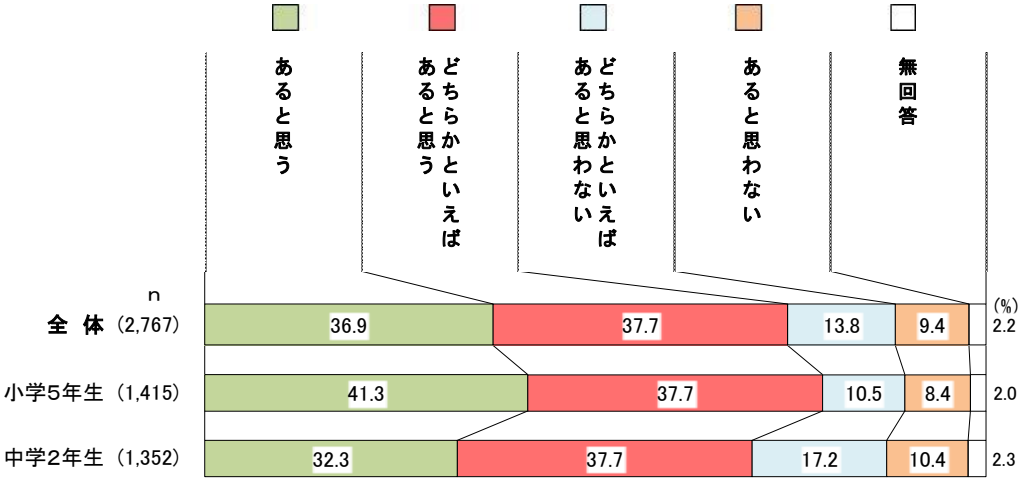
将来の夢や目標の有無【子ども】

将来の夢や目標を『持っている』（「持っている」＋「どちらかというと持っている」）小学５年生は８割台、中学２年生は６割台です。



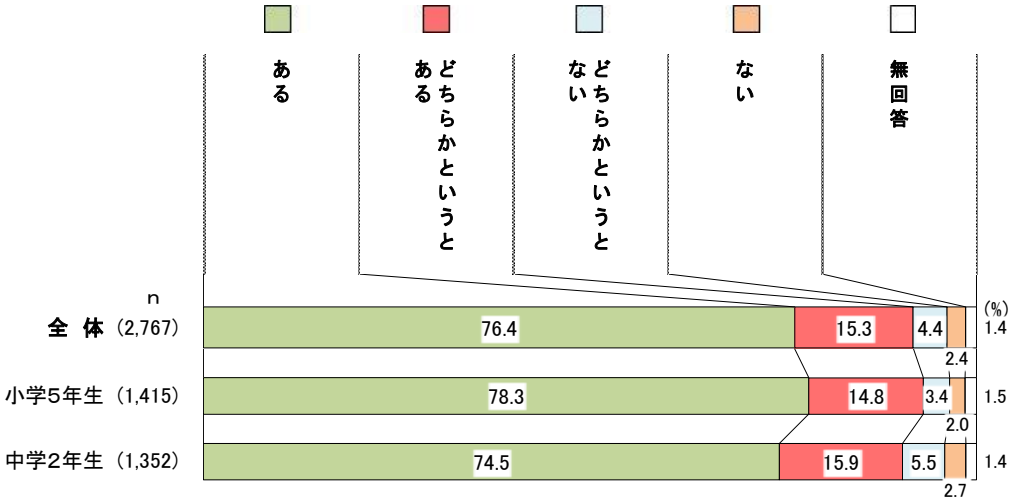
自分自身の良いところの有無【子ども】

自分自身に良いところが『あると思う』（「あると思う」＋「どちらかといえばあると思う」）子どもは、７割台です。



最後までやり遂げてうれしかった経験の有無【子ども】

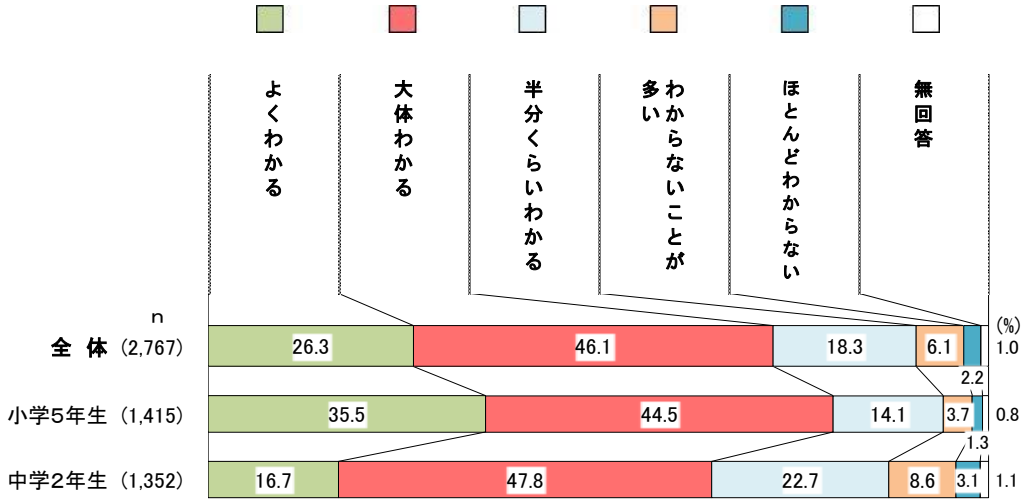
最後までやり遂げてうれしかった経験が『ある』（「ある」＋「どちらかというとある」）子どもは、９割台です。



学びについて

学校の授業の理解度【子ども】

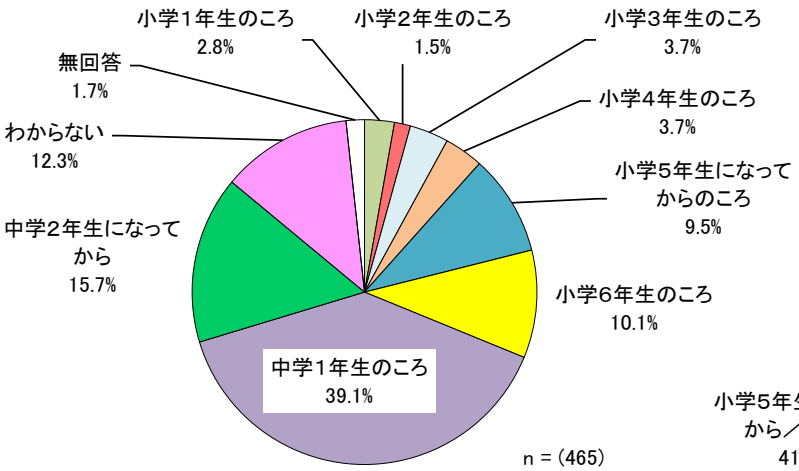
学校の授業が『わかる』（「よくわかる」＋「大体わかる」）小学５年生は８割、中学２年生は６割台です。



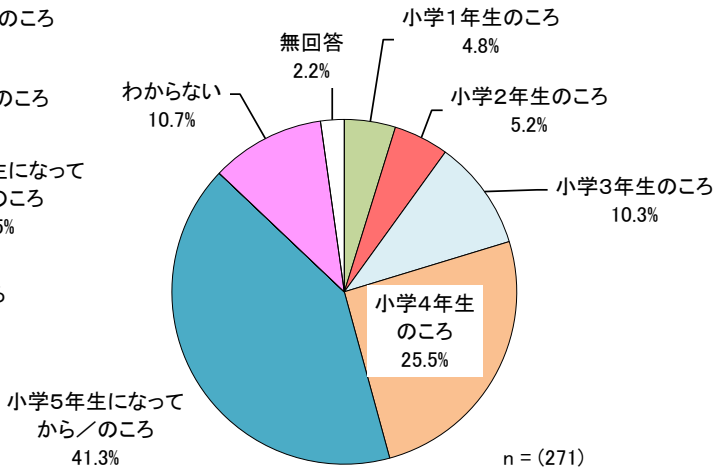
授業が分からなくなった時期【子ども】

授業が分からなくなった時期で一番多いのは、中学２年生は「中学１年生のころ」、小学５年生は「小学５年生になってから」です。

■中学２年生



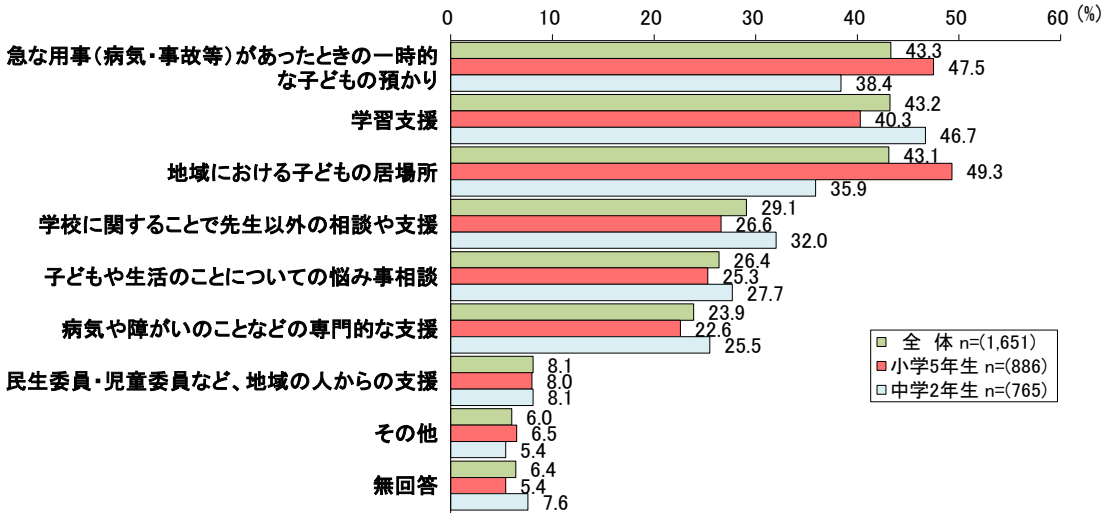
■小学５年生



希望する支援

子どもや家庭の支援策として希望するもの【保護者】

一番多くの保護者が希望する支援策は、小学５年生保護者は「地域における子どもの居場所」、中学２年生の保護者は「学習支援」です。

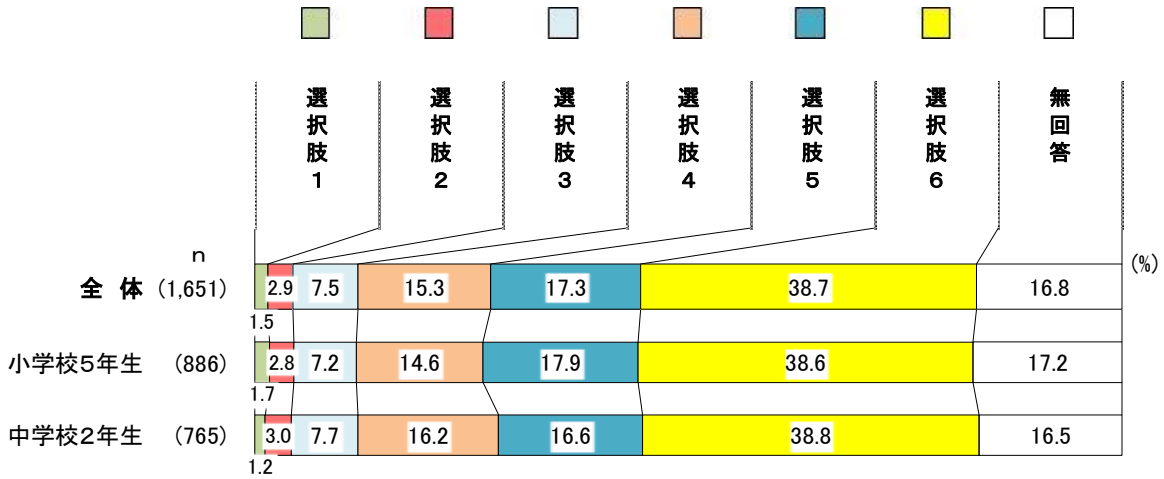


所得区分別の傾向（抜粋）

所得区分

世帯の昨年１年間の可処分所得【保護者】

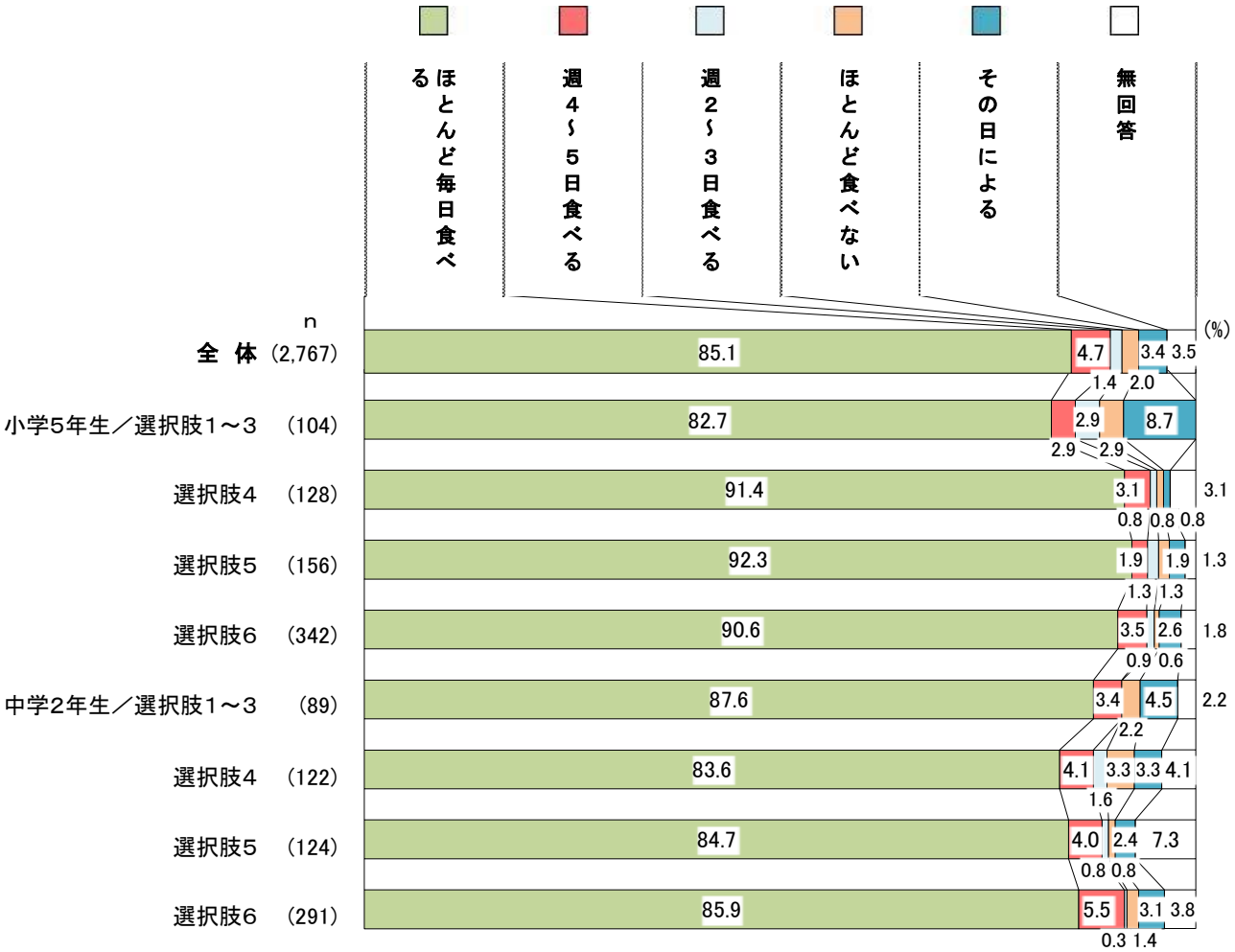
保護者調査 問 24 でご回答いただいた可処分所得額について、国が算出した貧困線の水準を基とすると、貧困線未満に該当する世帯は、選択肢１と２です。しかし、貧困線をやや上回っていても経済的困難を抱える家庭があることを勘案し、可処分所得別での分析は、選択肢１から３、選択肢４、選択肢５、選択肢６の４区分で行っています。



所得区分別の傾向

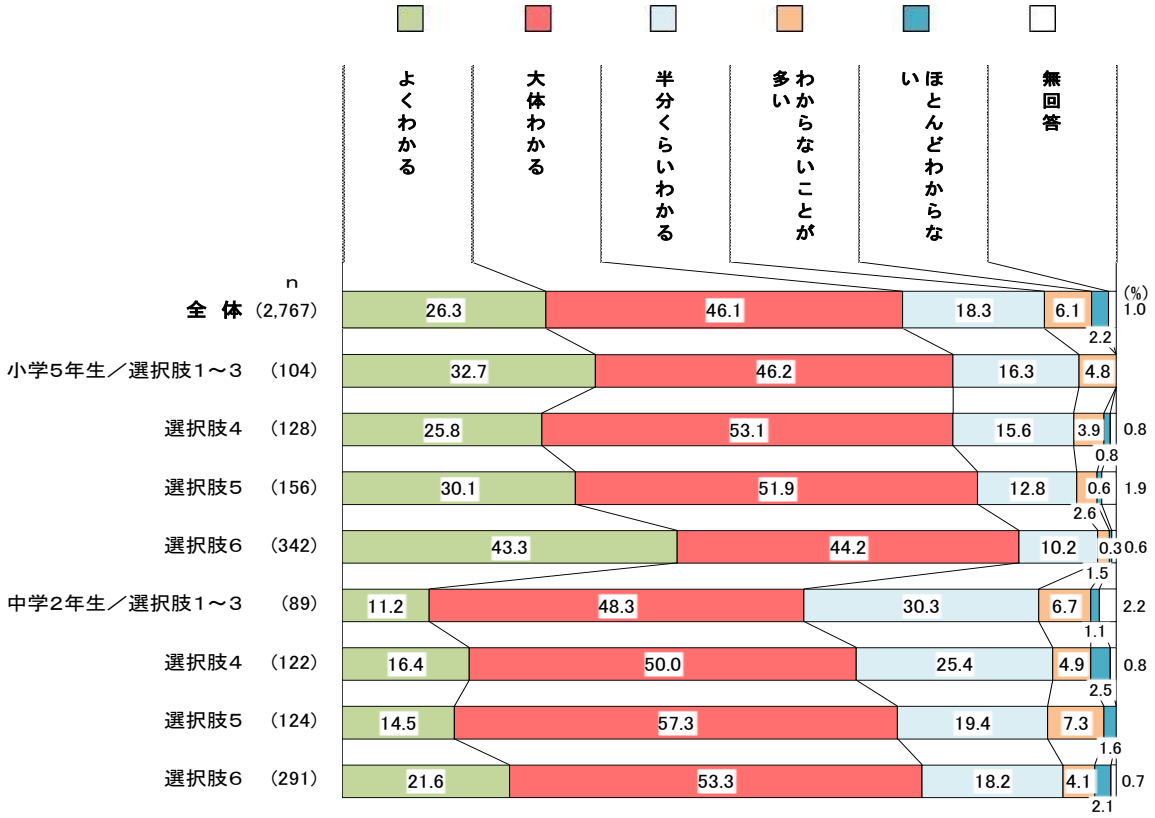
朝ご飯を食べる頻度【子ども】

朝ご飯を「ほとんど毎日食べる」、選択肢１～３の世帯の小学５年生は約８割であり、選択肢４～６の世帯の約９割と比べ、低い傾向があります。



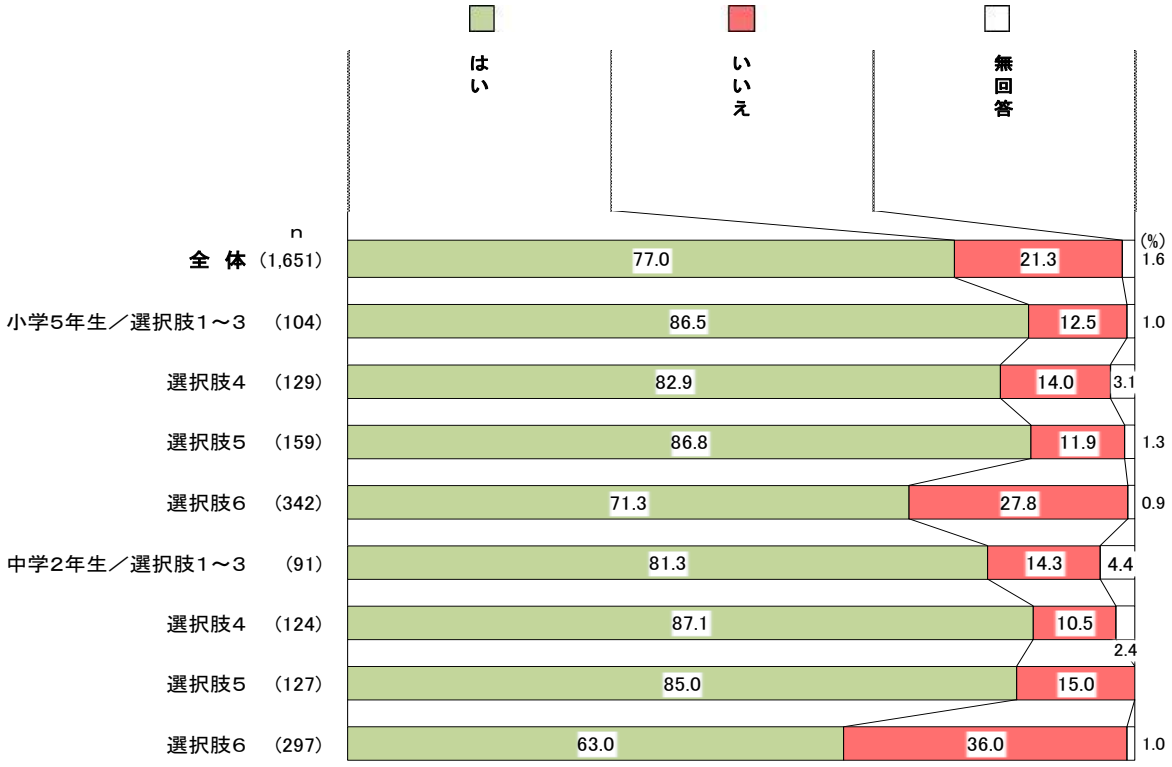
学校の授業の理解状況【子ども】

学校の授業が『わかる』（「よくわかる」＋「大体わかる」）子どもは、選択肢「１～３」「４」「５」「６」とだんだんと多くなる傾向があります。



無料の学習支援の参加希望の有無【保護者】

無料の学習支援を希望する選択肢１～５の世帯の保護者は８割台であり、選択肢６と比べると、小学５年生の保護者の約１．２倍、中学２年生の保護者の約１．３倍です。

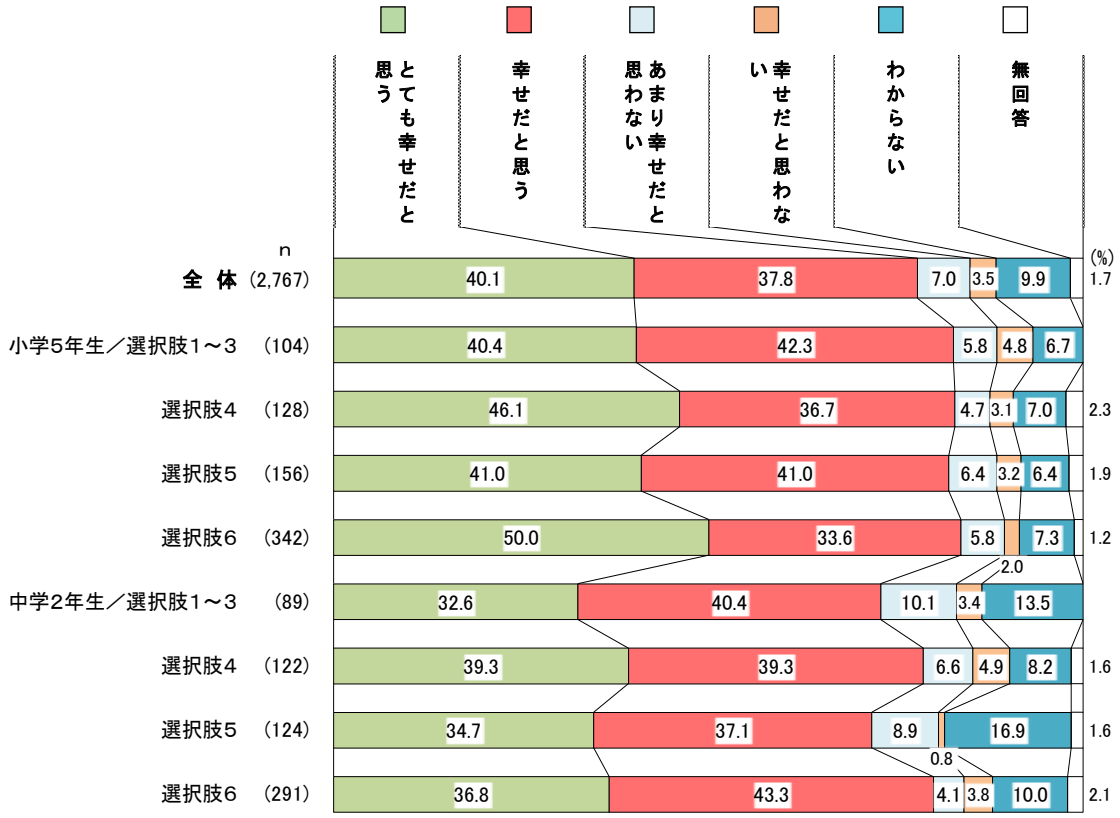


自身の幸福度【子ども】

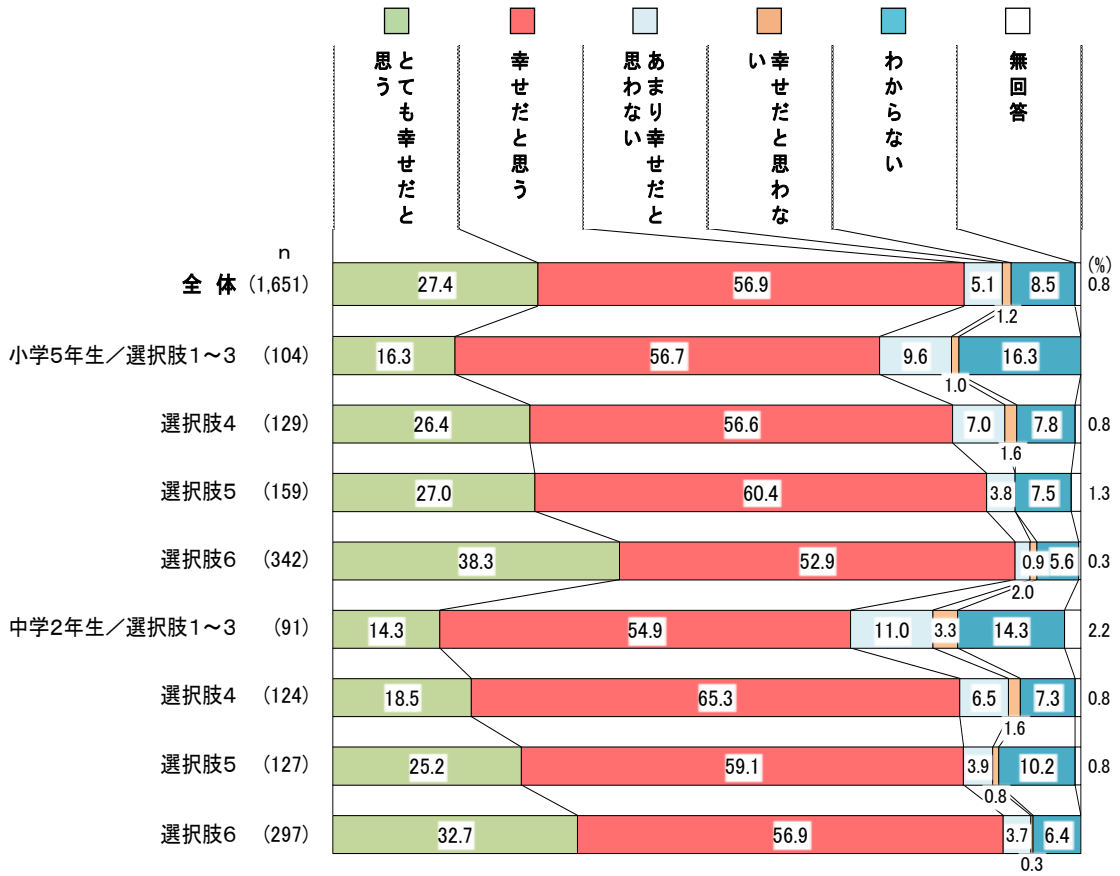
『幸せだと思う』(「とても幸せだと思う」＋「幸せだと思う」) 保護者は、選択肢「１～３」「４」「５」「６」とだんだんと多くなる傾向があります。

一方、『幸せだと思う』子どもは、所得区分による大きな差はなく、７割から８割です。

■子ども

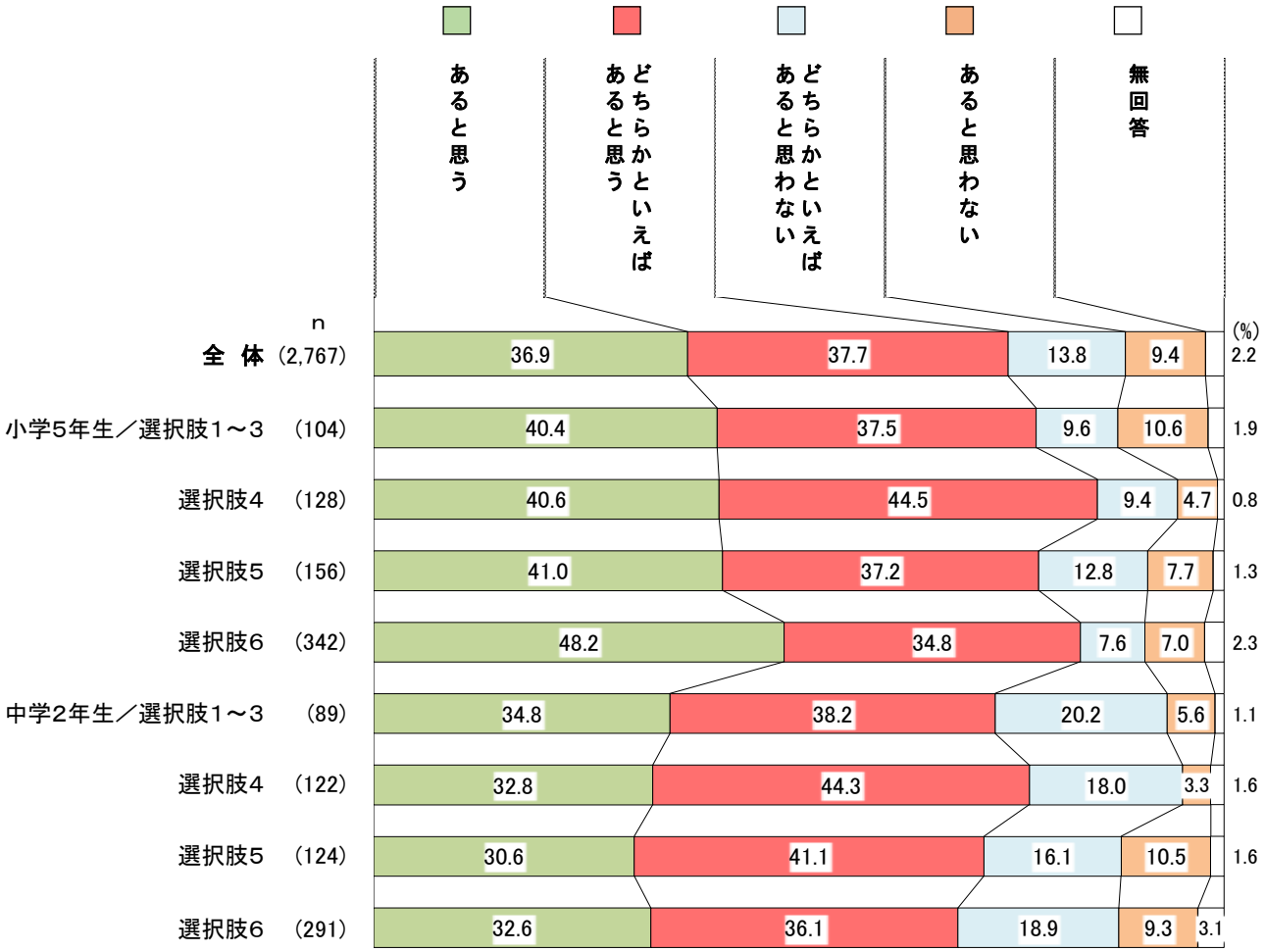


■保護者



自分自身の良いところの有無【子ども】

自分自身に良いところが『あると思う』（「あると思う」＋「どちらかといえばあると思う」）小学５年生は、所得区分に関わらず７割から８割、中学２年生は、所得区分に関わらず６割から７割です。

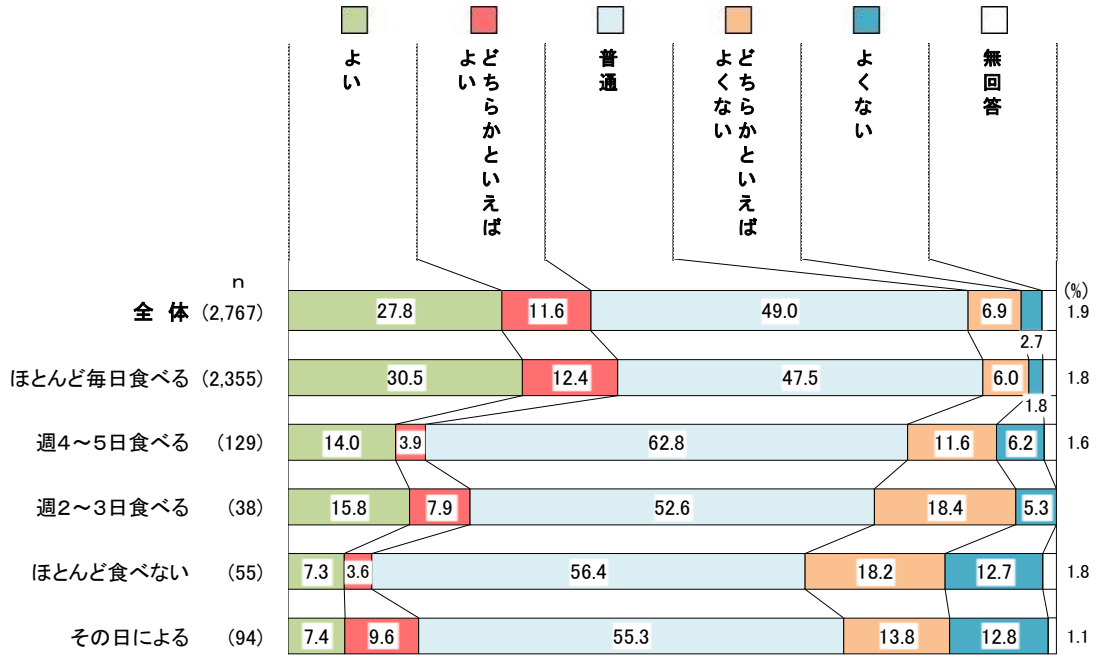


朝食頻度別、起床時間・就寝時間別の傾向

朝食頻度別の傾向

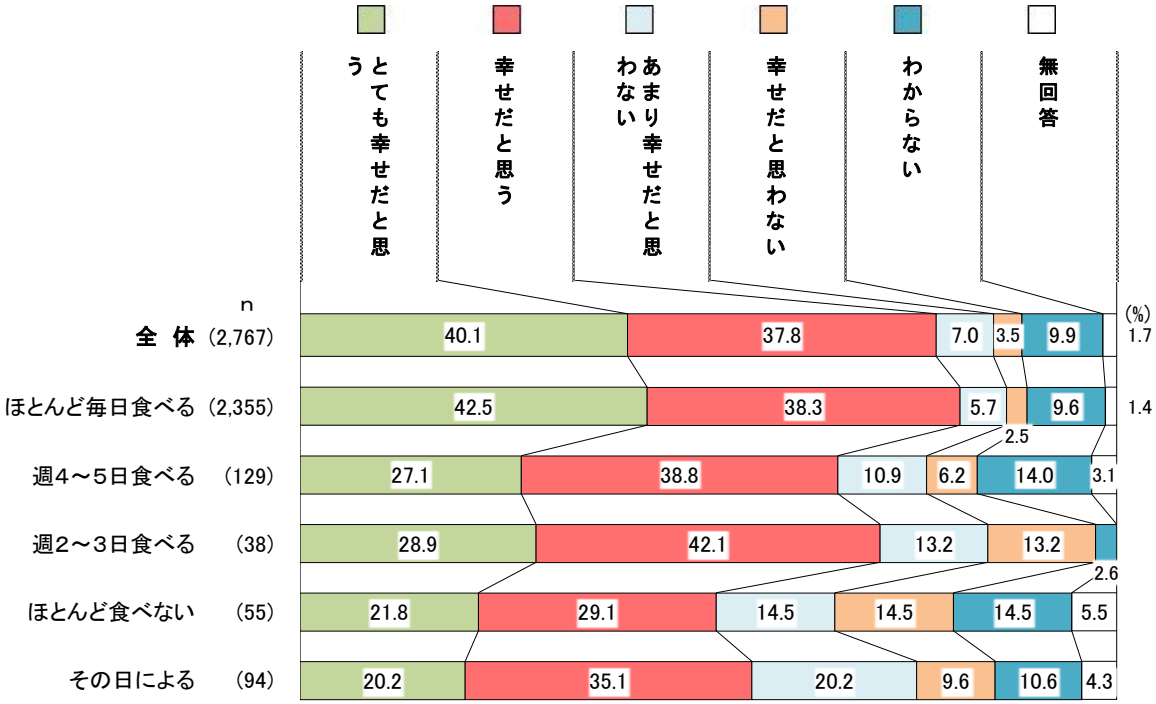
自分の健康状態（主観的）【子ども】

朝ご飯を「ほとんど毎日食べる」子どもは、他の子どもと比べ、健康状態が『よい』（「よい」＋「どちらかといえばよい」）割合が高く、４割台です。また、ほとんど朝ご飯を食べない子どもは『よくない』（「よくない」＋「どちらかといえばよくない」）割合が高く、約３割です。



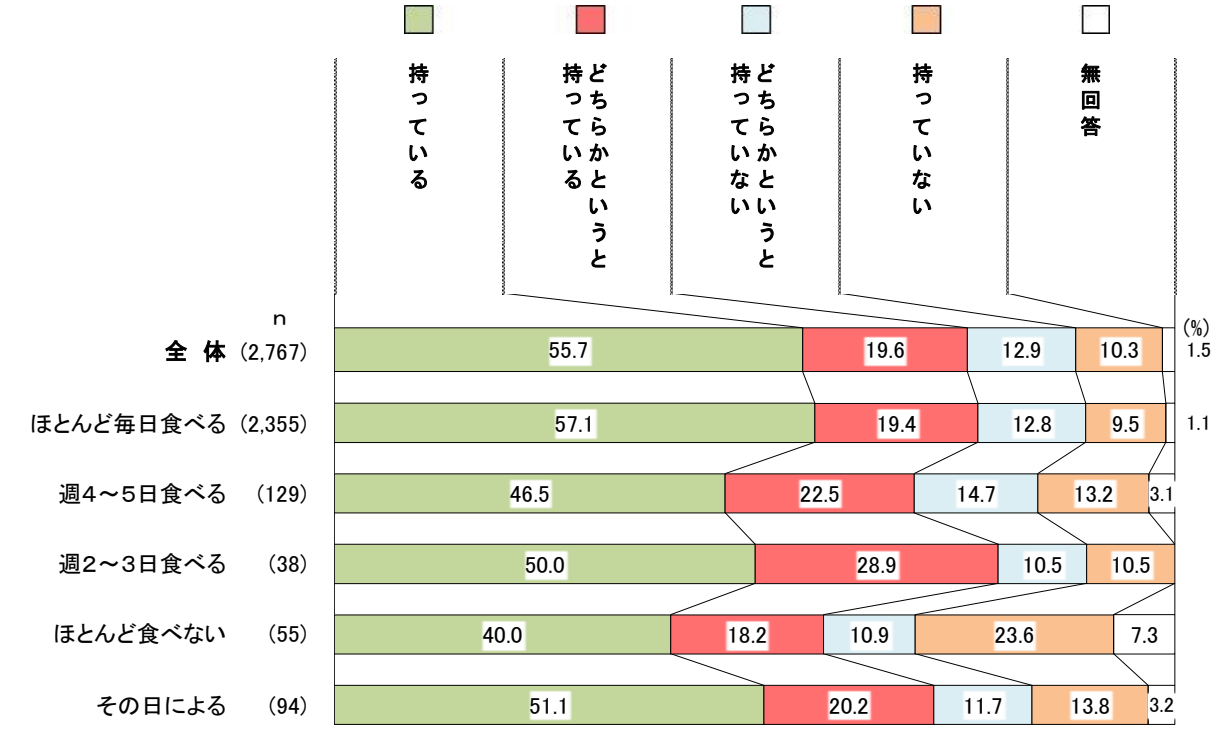
自分の幸福度【子ども】

朝ご飯を「ほとんど毎日食べる」子どもは、他の子どもと比べ、『幸せだと思う』（「とても幸せだと思う」＋「幸せだと思う」）割合が高く、８割台です。一方、朝ご飯をほとんど食べない子どもは５割にとどまっています。



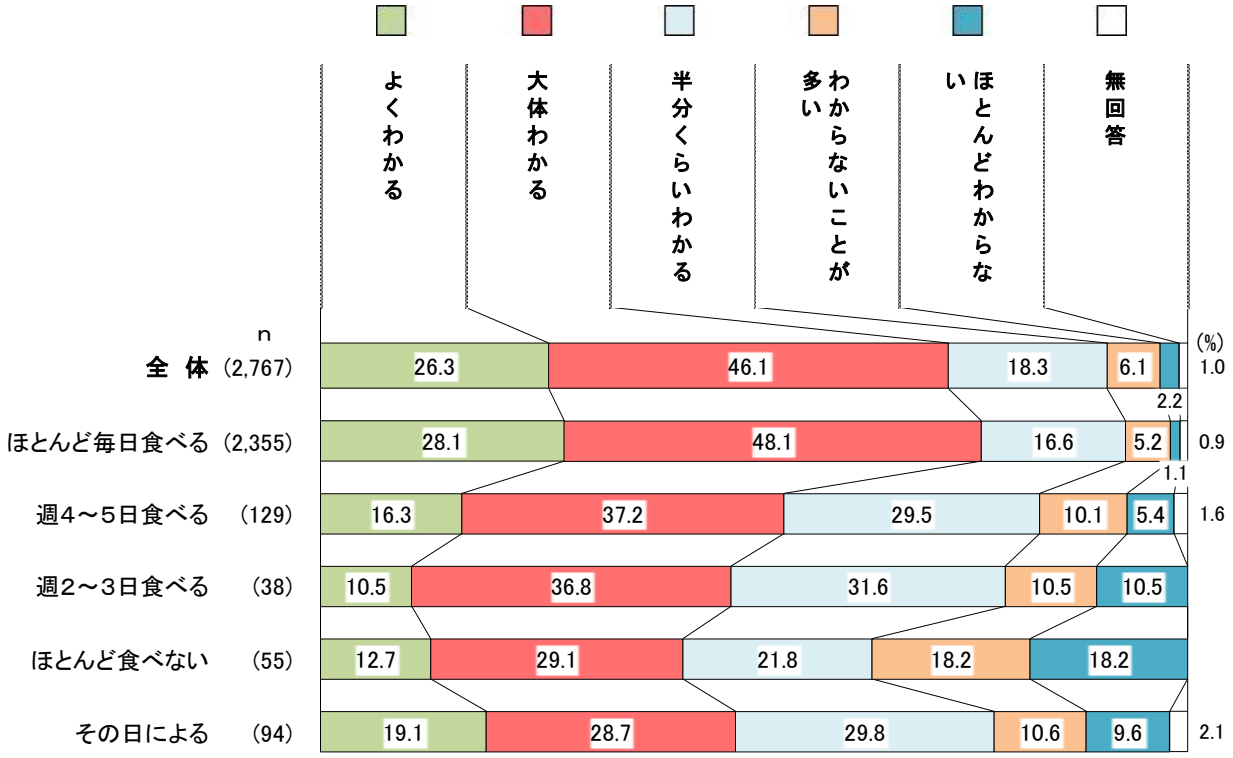
将来の夢や目標の有無【子ども】

朝ご飯を「ほとんど食べない」子どもは、他の子どもと比べて将来の夢や目標を「持っていない」割合が高く、２割台です。



学校の授業の理解状況【子ども】

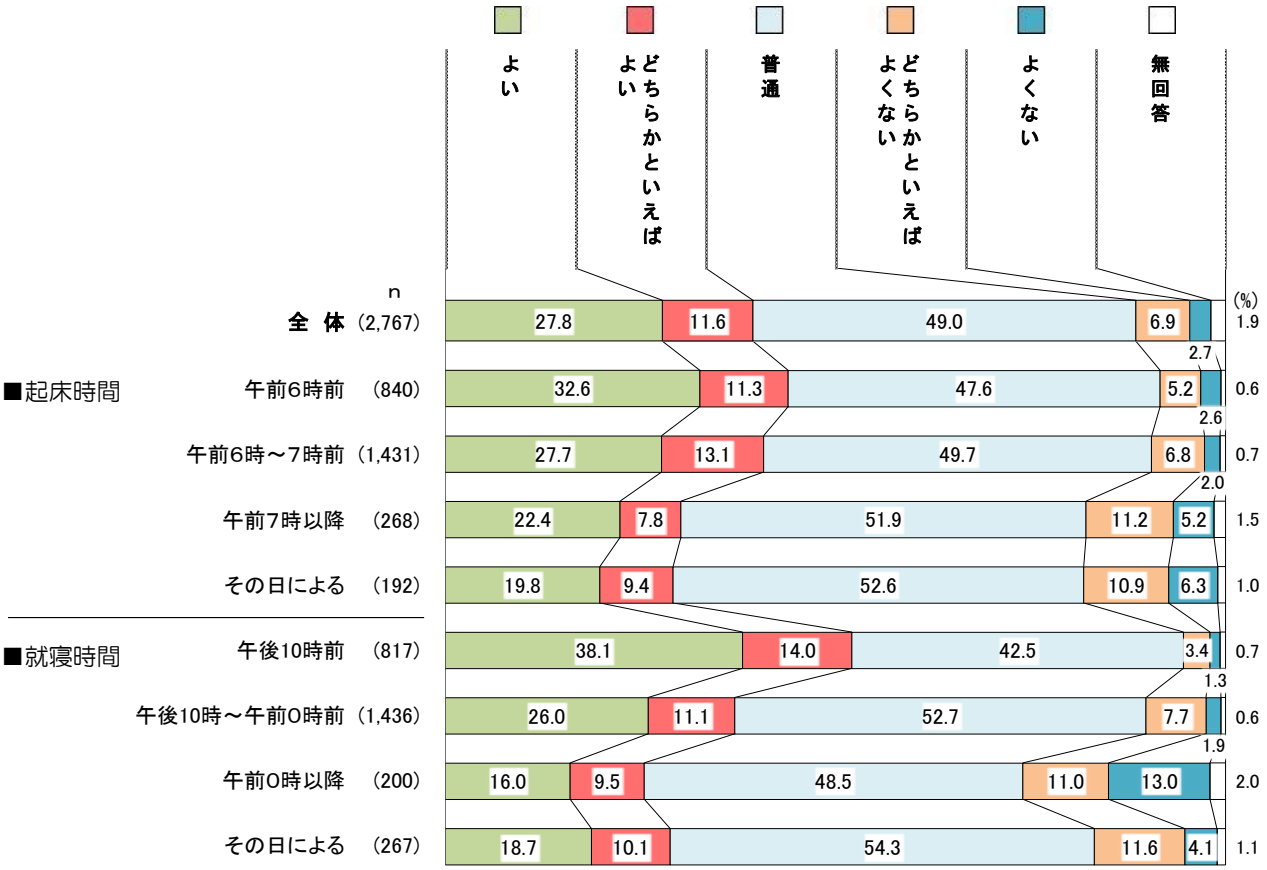
朝ご飯を「ほとんど毎日食べる」子どもは、他の子どもと比べて学校の授業を『わかる』(「よくわかる」＋「大体わかる」) 割合が高く、５割台です。



起床時間・就寝時間別の傾向

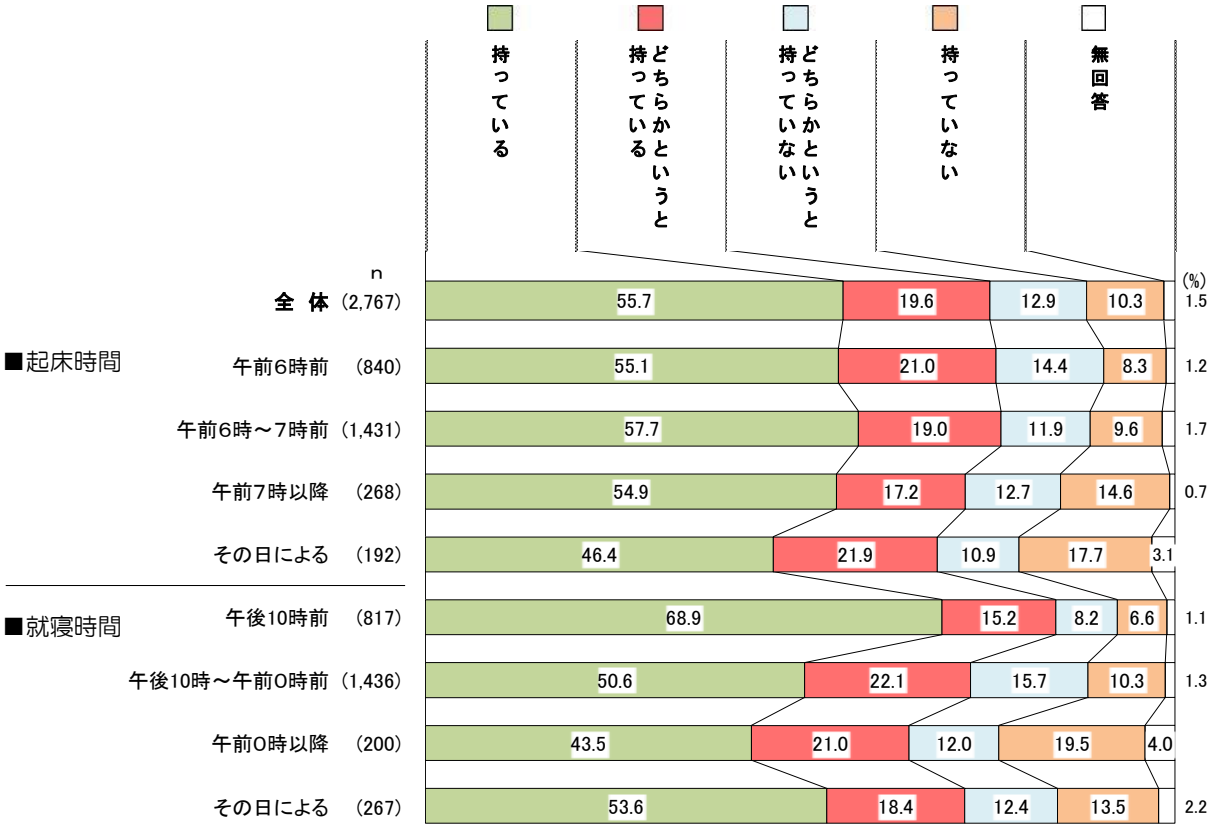
自分の健康状態（主観的）【子ども】

起床時間と就寝時間が早いほど、健康状態が『よい』（「よい」＋「どちらかといえばよい」）子どもの割合が高く、特に就寝時間にその傾向が強くあります。



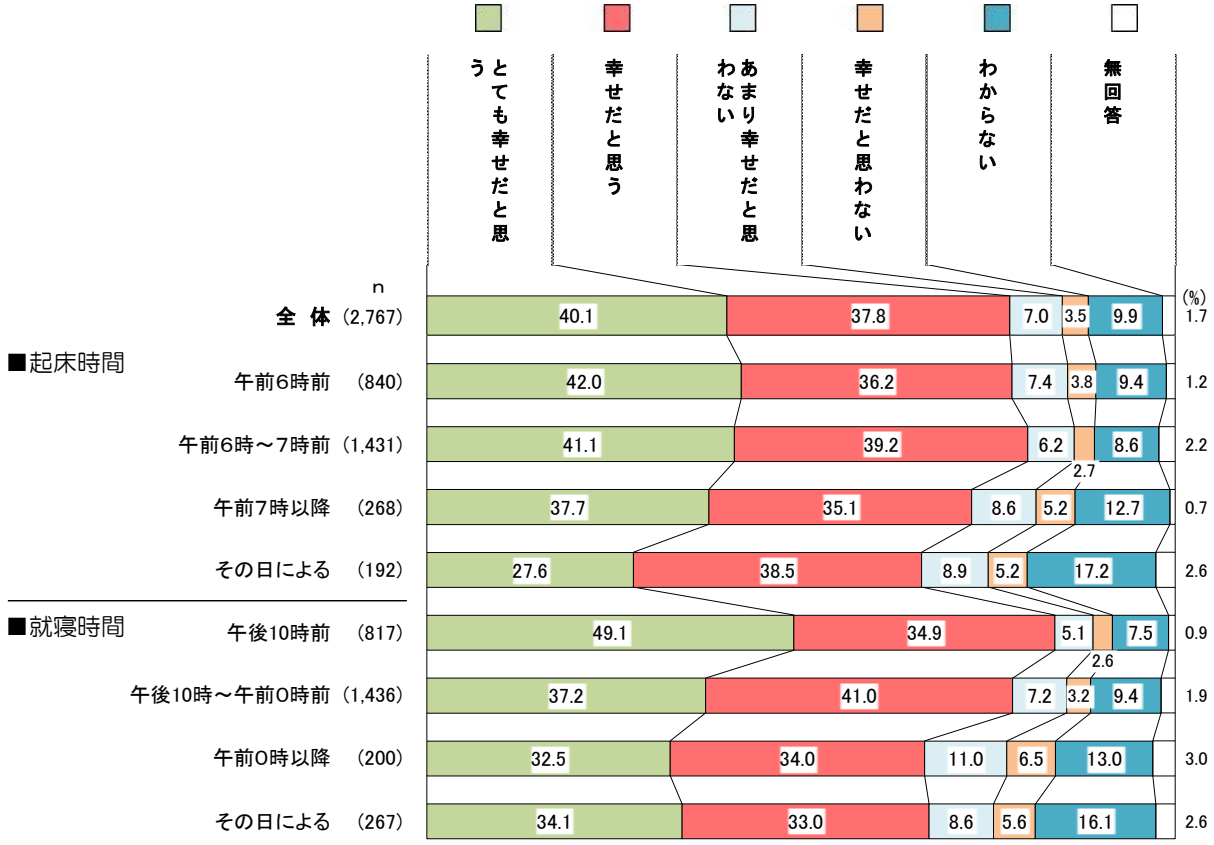
将来の夢や目標の有無【子ども】

就寝時間が早いほど、将来の夢や目標を持っている子どもの割合が高く、午後１０時前に就寝する子どもの割合は約７割です。



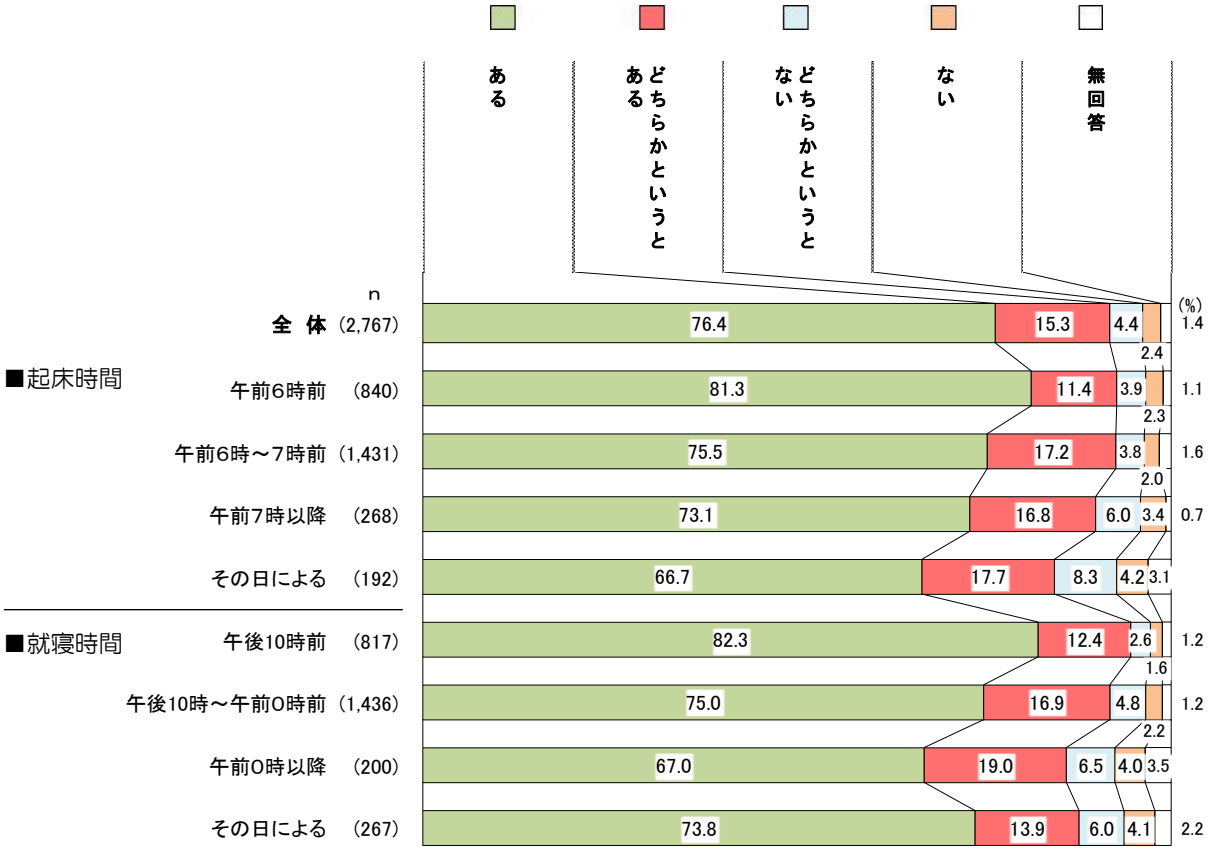
自分の幸福度【子ども】

就寝時間が早いほど、『幸せと思う』（「とても幸せだと思う」＋「幸せだと思う」）子どもの割合が高く、午後１０時前に就寝する子どもの割合は８割台です。



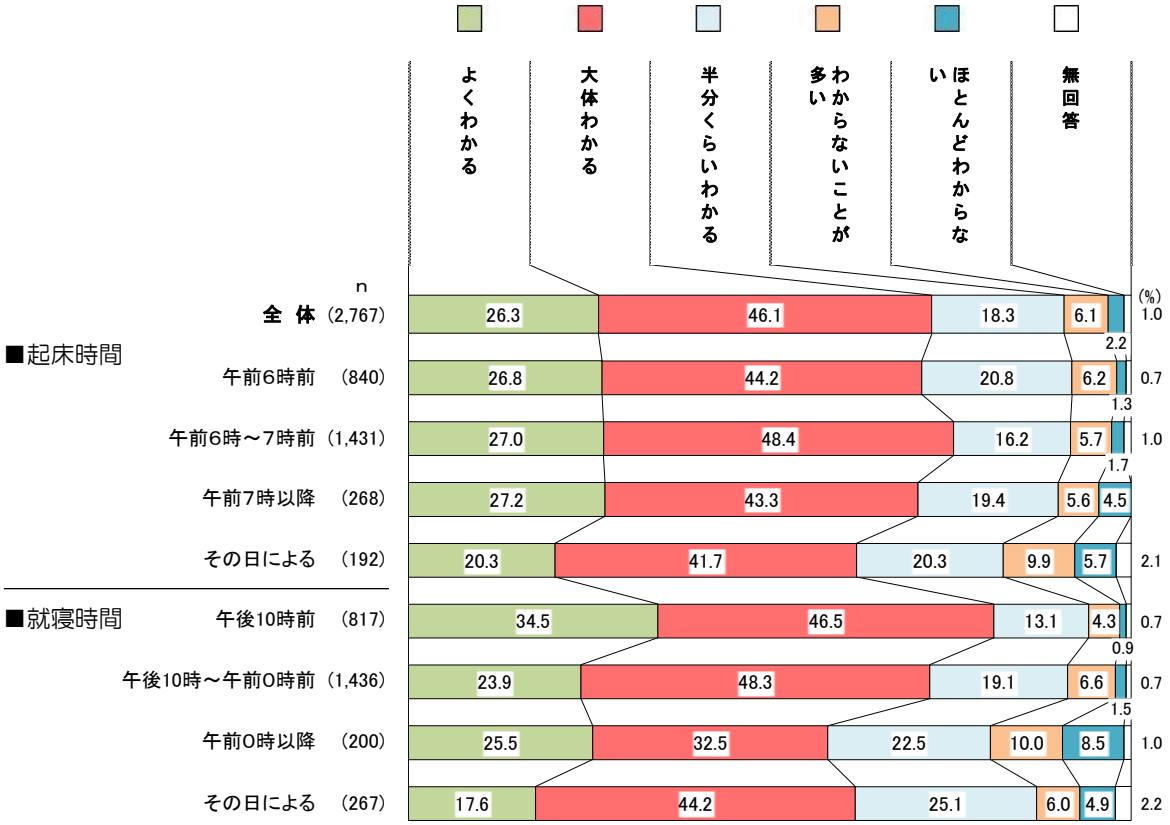
ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことの有無【子ども】

起床時間と就寝時間が早いほど、ものごとを最後までやりとげてうれしかったことが「ある」子どもの割合が高い傾向があります。



学校の授業の理解状況【子ども】

就寝時間が早いほど、学校の授業が『わかる』（「よくわかる」＋「大体わかる」）子どもの割合が高く、午後１０時前に就寝する子どもの割合は８割台です。



調査結果のまとめ

健康について

子どもたちの主観的健康状態や幸福度を朝食の喫食状況別にみると、喫食頻度が低くなるにつれて『(健康状態は)よくない』『幸せだと思わない』が増えています。これは睡眠時間でも同様の傾向が現れており、起床及び就寝時間が遅い子どもに『(健康状態は)よくない』『幸せだと思わない』という回答が多いことから、子どもたちが健やかに成長していくには、早寝早起きで朝食をしっかりと食べることが大変重要ということが分かります。

将来の夢や自己肯定感

子どもたちに「自分によいところがあると思うか」という自己肯定感について可処分所得別にみると、所得に関係なく肯定的に答えており、習志野市の子どもたちは家庭環境にかかわらず前向きに考えていることが分かります。

将来の夢や目標の有無については、朝食をほとんど食べない子どもたちや就寝時間の遅い子どもたちに『持っている』という回答が少ない傾向が現れています。

学びについて

子どもたち自身に学校の授業の理解度について聞いたところ、授業が『わかる』のは、小学５年生で８割、中学２年生では約６割でした。こちらを可処分所得別にみると、『わかる』のは、小学５年生、中学２年生ともに選択肢６が最も高く、所得が低くなるにつれ減少しています。また、朝食をほとんど食べない子どもたちはほとんど毎日食べる子どもたちより『わかる』割合が３割以上も低く、学力と朝食に明らかな相関関係があることが見受けられます。さらに、就寝時間が早い子どもたちの『わかる』割合が８割以上と突出していることから、睡眠も学力に影響すると言えます。

授業が「半分くらいわかる」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」と答えた子どもたちに授業が分からなくなった時期を聞いたところ、小学５年生は「小学５年生になってから」、中学２年生は前年である「中学１年生のころ」がともに４割を占め最も多いことから、授業の理解が遅れがちになる要因を把握し、きちんと理解できる学習環境をつくることが重要であると考えます。

希望する支援

子どもや家庭の支援策として希望するものとして、小学５年生の保護者は、地域における子どもの居場所や急な用事が発生した際の子どもの預かりなど、状況に応じた居場所づくりを求めています。

一方、中学２年生の保護者からは、学習支援の希望が最も高くなっています。さらに、無料学習支援への参加を可処分所得別にみると、選択肢６を除く全ての層が８割以上の割合で希望しており、ニーズに応じた支援を進めていくことが必要です。

子どもの生活に関する実態調査　平成 29 年度　報告書【概要版】
発行：習志野市こども部こども政策課（平成 30 年３月）
住所：〒275-8601　千葉県習志野市鷺沼２－１－１